

春子生産上の留意点

はじめに

春子発生期の4月初めからゴールデンウィーク頃までの間に乾燥した天候が続いた場合、放置しておくとも芽切ったしいたけが枯死し収穫量が激減します。

芽切ったしいたけを品質の良いものに生長させ、少しでも多く収穫するために次の点に留意しましょう。

1 発生時の留意点

(1) 風除け

風を弱めホダ木の乾燥を防ぎます。

このため、防風ネットなどを利用して風がホダ場の中に入り込まないようにしましょう。地形形状周囲を囲むことができない時は、上風方向に直角にネットを張ります。また、ホダ場が広範囲に渡る時には、防水効果を高めるため、ホダ場の内部を区切るようにネットを張ります。

(2) 散水

防風ネットなどだけでは、ホダ木を乾燥から守ることが不十分な場合には、散水を行わないホダ木に水分を与えます。

散水は、方法を誤るとホダ木から水分蒸発を促進させる結果になることもあるので朝または夕方から夜に行ない、気温が高くなる日中は行いません。

散水は、芽切ったしいたけがピンポン玉程度の大きさになったら停止します。それ以降も散水を続けた場合、収穫時に黒っぽいものが多くなります。

(3) 被覆

日中の気温が低い(約10以下)場合は、ビニールなどでホダ木を被覆します。

また、気温が高い場合は、散水の後にアルミ蒸着資材で被覆します。

手捲き散水を行なった後に被覆すると、ホダ木の水分が保たれるとともにしいたけの成長促進に効果があります。

芽切ったしいたけに1つずつ被覆する方法もありますが、急激な気温の上昇に対する注意が必要です。

2 収穫時の留意点

(1) 採取の目安

春先は低温傾向にあるので、生長が緩慢などんこの生産が一般的です。

膜が切れてヒダが見える6分開きを目安に採取します。

(2) 採取の優先順位

日中の気温が20近くになり、急速に開傘が進みそうな場合や、採取途中の降雨により雨子になりそうな場合は、手前のホダ木から順序に採取するのではなく、採取適期になった色や形の良いしいたけを選んで採取します。後で取り残しのしいたけを採取します。

発生しているもの全てを採取しようとすると、高値になりそうなものまで開傘や雨子で品質を低下させてしまいますので、良いものは先に採取し乾燥します。

3 乾燥時の留意点

乾燥機は、機種によって温度センサーの位置が異なりますので、温度測定位置を確認した後、きのこの肉の厚さによって乾燥機内のエビラの配置を決めます。

一般にどんこは温度変化のゆるやかなところでゆっくり乾燥させます。

(担当 林業専門技術員 伊東茂敏、 特用林産部 主任専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410